

公益財団法人宗像ユリックス
平成 28 年度事業計画

平成 28 年 3 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	2
2. 平成 28 年度財団運営の基本方針	3
3. 平成 28 年度事業運営	
① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」	4～5
② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」	6
③ 収 2 「利用者サービス事業」	7
④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」	8～11
⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」	12～13
⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」	14～17
⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」	18
4. 平成 28 年度財団運営	
① 組織・運営体制	19
② 財政運営	19

1. はじめに

本年度は公益財団法人宗像ユリックスが担う第三期指定管理の4年間という枠組みでいえば、折り返しの年にあたります。前半期2年間の足取りと実績について各方面からいただいた評価にはスタッフ一同が手ごたえを感じております。同時にこれに奢ることなく、後半期も着実な運営を続けてまいります。そして私たちの視野はすでに、何よりも市民・利用者のみなさんのご指導とご支援を力にしながら「第四期指定管理」を目指すというところに及んでいます。この事業計画書もそうした財団の“構え”を織り込んだものとして目をとおしていただければ幸いです。

このところ宗像ユリックスに何かと注目度が高まっているのを実感します。例えば、地域の文化・芸術活動支援を全国展開する（一財）地域創造が、その機関紙「地域創造レター」を制作するにあたって、ユリックスの中堅スタッフに“出演”を依頼してきました。また、全国公立文化施設協会が手がけている「劇場、ホールの地域展開」をテーマとしたハンドブックづくりでは、その編集責任者が宗像まで取材に訪れました。さらに、同協会が文化庁から受託した「イギリス視察研修」チームのメンバー（全国で7人）にわがスタッフが選ばれ、大きな成果を手に帰ってきました。ユリックスの職員研修を急ぎよ実施するというかたちでその成果が還元されたことも付言しておきたいと思えます。

この数年「文化・芸術が持つ社会包摂機能」と、そこに果たすべき公立文化施設の役割りについて、様々な議論が広がりを見せています。国の文化政策に関する公的文書にもそれは登場します。

私どもの仕事に当てはめて考えるなら「ユリックスのアウトリーチなど地域展開の取り組みを、さらに地域課題に対応するものにしていこう」という方向性を問う考え方とっていいでしょう。

この事業計画書はこうしたユリックスにも関係する新たな局面を声高に唱えるものではありません。むしろ、着実な業務遂行を第一としてまとめています。しかし、ユリックスが情報発信力を高めてきている中ですから、これからの取り組みの方向性を意識することは確かです。「変わる」ことを恐れる組織に待っているのは「退歩」であるといえます。そのことを肝に銘じながら、新たな年度のスタートを切ってまいります。変わらぬご指導、ご協力をお願いします。

2. 平成 28 年度 財団運営の基本方針

平成 28 年度は、第三期指定管理の 3 年目、来年度の第四期指定管理獲得への評価の年である。確実に実績を積み重ねていき、第四期指定管理を目指す。

市が策定した「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の実現に向け、市や市民、利用者、各種団体との連携・協働を進めていく。

さらに、平成 29 年度の「宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録」や「第 37 回全国豊かな海づくり大会」への準備も進めていく。

①音楽のあふれるまちづくりに向けた活動

今年度より中学校でのアウトリーチを実施する。これにより市内の全ての幼稚園、保育園、小学校、中学校に音楽を届けられることができる事となる。また、子どもの発育段階にあわせた鑑賞事業を計画的に実施し、アウトリーチとの相乗効果を目指す。

②コミュニティ運営協議会や各種市民団体、教育機関などとの連携

今年度も実施する「ミアール音楽祭」や「アウトリーチ」「健康増進事業」など様々な事業をコミュニティ運営協議会や福岡教育大学など各種市民団体と連携し実施していく。

③健全財政への取り組み

収入改善のため、各施設の利用率、コンサートのチケット販売率の向上を目指す。また、新しい財源の確保のため、租税控除対象法人としての税制優遇制度の活用し多くの市民、団体、企業からの寄付を集める。

④「安全・安心」の宗像ユリックスを目指して

宗像ユリックスは、開館 28 年を迎え施設、設備の老朽化が進んでいる。利用者が安全・安心に利用できるために、今まで以上の維持管理に努めると共に、市が実施する第二期保全工事の実施をサポートする。また、4 年に一度実施している「ユリックスアンケート」を実施し、市民・利用者の意識動向の分析と把握を行う。

3. 平成 28 年度 事業運営

① 公 1、収 1「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

平成 27 年度は 4 月から 6 月にかけて行なわれたイベントホール保全改修工事の影響による、貸出不可区分の発生により、利用者数及び利用料収入の減少が見られた。

今年度は、そのようなマイナス要因も少ないため、近年続いていた利用者数や利用料の減少傾向を打破するための顧客開拓施策立案を行なう。また、施設利用状況の分析を行ない、稼働率の低い施設や時期を減少させ、利用者数や利用料金の増加を促す。

サービス面としては、「夜間有料学習室」、「スタジオ当日受付の半額割引」の継続、「舞台上で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に定着した施策を継続していくこととともに新たな施設稼働率向上の施策立案及び実施を目指す。

昨年度から本格稼働した新施設管理システム及び新チケットシステムへの習熟度を増すことで、よりスムーズな施設予約やチケットの提供を行なうとともに、窓口での接客・電話対応レベルの向上を目指し、職員の積極的な研修を行なう。

更に今年度は 4 年に一度の市民アンケート調査を実施することで、ニーズの把握を行ない、その結果を基にした備品の更新やサービスメニューの拡充、施設保全工事計画への提言などを通し、利用環境の改善や来場者の満足度アップを図っていく。

また、平成 29 年度には「宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録」や「第 37 回全国豊かな海づくり大会」に関する行事が予定されており、今年度から施設利用の調整が必要となってくると思われるため、関係機関と十分な連携を取りながら準備を進めていく。

以上の施策を踏まえ、今後も利用者ニーズに沿った施設運営とサービスの導入を続けながら、「利用料金収入」、「施設稼働率」、「利用者数」の 3 大指標の向上を目指す。

【 数値目標 】

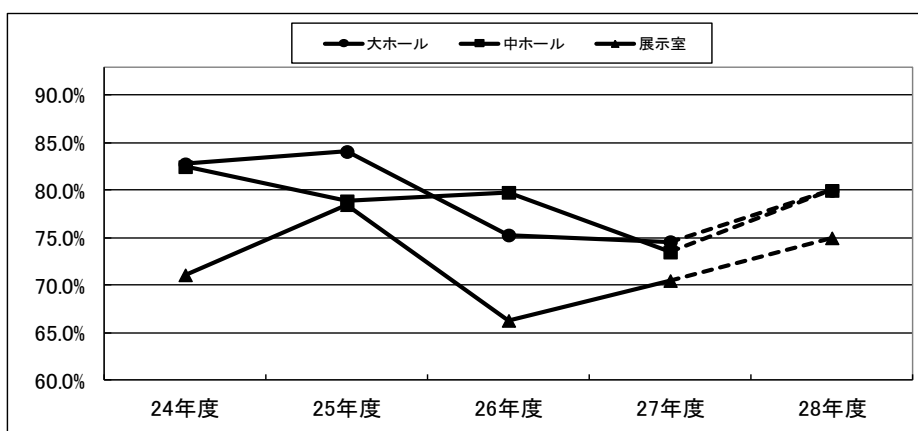
●3大施設平均利用率 78.3% 【大ホール 80.0%、中ホール 80.0%、展示室 75.0%】

3大施設利用率の推移

※27年度は見込値、28年度は目標値

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
3大施設利用率	78.8%	80.5%	73.8%	72.9%	78.3%
大ホール	82.8%	84.1%	75.3%	74.6%	80.0%
中ホール	82.5%	78.9%	79.8%	73.5%	80.0%
展示室	71.1%	78.5%	66.3%	70.5%	75.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



●本館等利用者数 260,000 人 / 本館等利用料金 61,000,000 円

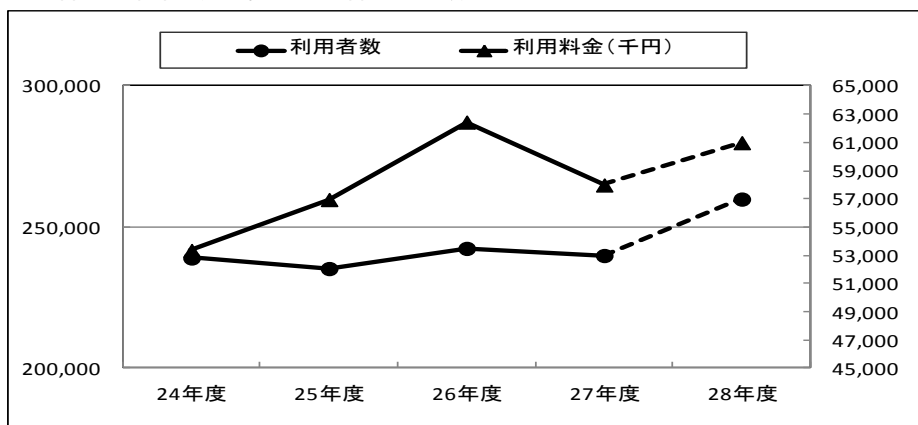
本館利用者数・利用料金の推移

※27年度は見込値、28年度は目標値

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用者数(人)	239,133	235,378	242,524	240,000	260,000
対前年比	98.3%	98.4%	103.0%	99.0%	108.3%
利用料金(千円)	53,359	56,967	62,458	58,000	61,000
対前年比	89.6%	106.8%	109.6%	92.9%	105.2%

※利用者数：本館一般施設利用者（図書館を除く）と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公 1、収 1「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」

平成 28 年度に宗像市が実施する第二期保全工事は、両ホール楽屋等の改修やサーキットレーニングコースの改修などが予定されている。両ホールについては、年度末から平成 29 年度前半の工事予定である。各工事とユリックス利用者とのトラブルが起こらないように十分な調整を行っていく。

また、財団で行う修繕工事は迅速に対応し、ユリックス来場者の事故ゼロや施設の長寿命化を目指す。

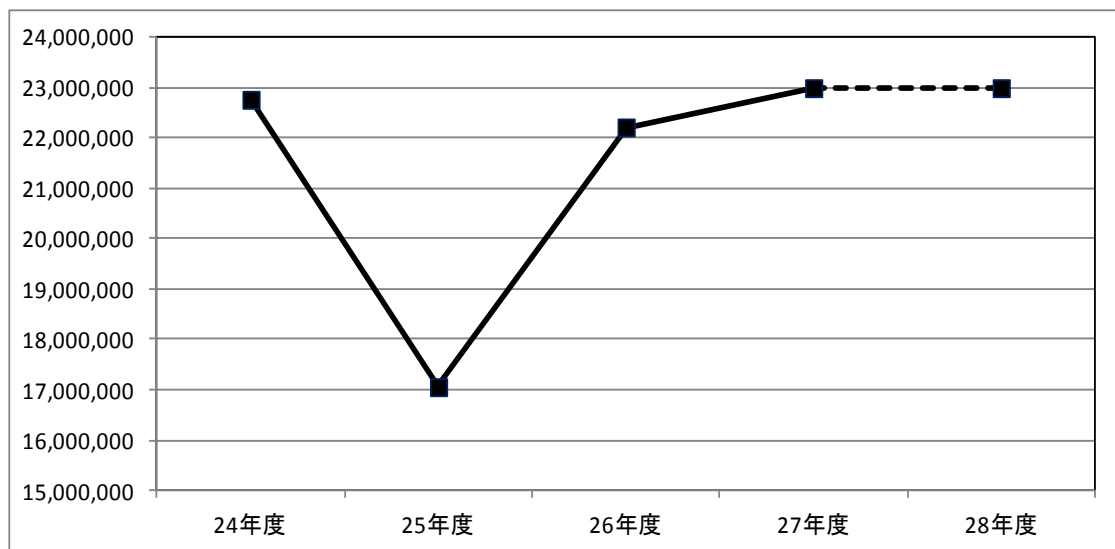
公園内の植栽管理は着実に実施されており、今年度も更なるレベルアップを目指していく。

安全管理としては各設備の法定点検の徹底や例年実施している防災訓練の内、3 月は実際にホールにお客様を入れた避難訓練コンサートを実施する。

【 修繕状況 】

※27 年度は見込値、28 年度は予定値

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
修繕発生件数(件)	105	92	101	130	130
対前年度比	81.4%	87.6%	109.8%	128.7%	100.0%
修繕費(円)	22,768,586	17,056,927	22,218,978	23,000,000	23,000,000
対前年度比	76.1%	74.9%	130.3%	103.5%	100.0%



③ 収 2 「利用者サービス事業」

●自動販売機設置事業

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内に 29 台の自動販売機を設置している。手数料収入として、売上額の 15～35%を徴収しているが、近年、伸び悩んでいる。

今年度は設置機器の更新計画を策定し、来年度に見直しを行ない、更なる手数料収入の増加を目指す。

●物品等販売事業

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。今年度行なう 4 年に一度の市民アンケートの実施等を通してニーズを探り、より一層の利用者サービスの向上と収入の確保に努める。

また、弁当、花の注文代行サービスの積極勧奨を行ない更なる手数料収入の増加を目指すとともに、新しい館内レストラン事業者との連携を模索する。

④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」

第三期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを宗像市と協働し推進する。

25 年度よりスタートした「宗像ミアール音楽祭」は、反響が非常に大きく、単発的なイベントとして終わらせずに継続的・発展的に取り組むとともに、文化芸術の担い手となる人材の養成と交流による市民文化活動の活性化に寄与していく。

そして、音楽祭をはじめとした様々な事業を通して、地域の人々を取り巻く社会的状況等に関わりなく、人々が潤いを感じ、心豊かな生活を実現する、「新しい広場」としての劇場・音楽堂を目指していく。

●文化芸術に親しめる環境整備

＜コミュニティ・学校との連携による鑑賞機会の創出＞

第二期より取り組みを始めたアウトリーチ事業をコミュニティ・学校との連携協力により積極的に推進し、長期的・継続的なプログラムとして展開していく。平成 28 年度は、中学校でのアウトリーチ事業をスタートさせる。既存のすくすくコンサート、市内幼稚園・保育所全園、市内小学校全校へのアウトリーチ事業に加え、中学校全校が加わり、子どもの発育段階に応じた事業展開の形が完成することになる。今後は更なる質の向上を図り、経験品質を高めていく。また、鑑賞型事業との関連性を訴求することで、事業効果も高めていく。

●文化芸術のための人づくり

＜コーディネーター機能とスキルの向上＞

市民文化活動の活性化を見据えて、文化芸術の担い手の養成や交流を積極的に推進していくため、財団のコーディネーター機能を高める。積極的な外部研修参加や先進地視察の実施などを通して、コーディネーターのスキル向上を図っていく。併せて、アーティストや地域との積極的な交流を通して、必要となる専門性や地域特性の情報について、時間をかけて蓄積していく。

●文化芸術を活かしたまちづくり

＜宗像ミアール音楽祭の継続＞

平成 25 年度より継続的に実施している宗像ミアール音楽祭について、長期的な視点をもった事業展開を行う。「ホールコンサート」はもちろん、「アウトリーチ」、「市民ステージ」の評価も高く、この形態を維持していく。本音楽祭の大きな特徴は市民参画で

あり、市民の祭り、ハレの空間と位置付けて取り組む。

また、政府が「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を平成 29 年の世界文化遺産候補としてユネスコへ正式推薦書を提出した事を受け、宗像ミアール音楽祭において九州交響楽団の演奏曲目や東京楽所公演などに反映させ、登録に向けた機運の高まりを意識した事業を実施する。

<スマイルキッズプログラム>

次代を担う子供たちへ文化芸術体験の場を積極的に提供し、直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とする。既存の事業に加え、新規事業を積極的に取り組み、教育分野との連携など、効果的な広報を行っていく。また、「スマイルキッズプログラム」を実施することで、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」の実現に貢献し、公共ホールとしての役割を果たしていく。

本事業は社会的課題解決を意識した投資事業として位置づけるとともに、専用広報紙を作成し、事業そのものの認知度を高めていくことで、宗像ユリックスに対してロイヤリティをもつ顧客の育成につなげていく。

【対象事業】

- ・ 小学校 4 年生芸術鑑賞モデル事業
- ・ いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所・小学校対象など)
- ・ すくすくコンサート
- ・ むなかた子ども芸術祭
- ・ ユリックス・ジュニアブラス
- ・ ジャジャジャジャーで始まる・わくわく・ドキドキ♥オーケストラ体験
- ・ 九管ポップス ファミリーコンサート
- ・ 音楽の絵本 他

●連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会等との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。昨年度、各地区コミュニティ運営協議会と連携し、「いきいき出前コンサート」を積極的に推進することを目的として覚書を締結し、具体的な活動をスタートさせた。本年度も連携関係を深めながら、事業を実施していく。同様に、福岡教育大学との連携に関する協定に基づく活動を行っていく。今後も関係機関との連携体制構築も着実にやっていく。

●「ユリックス スマイルクラブ」運営

平成 27 年度より、「ユリックス倶楽部」の内容を見直すとともに、新名称「ユリックス スマイルクラブ」としてスタートした。今後は、会員がより使いやすく、よりメリットを享受できる制度確立を目指す。

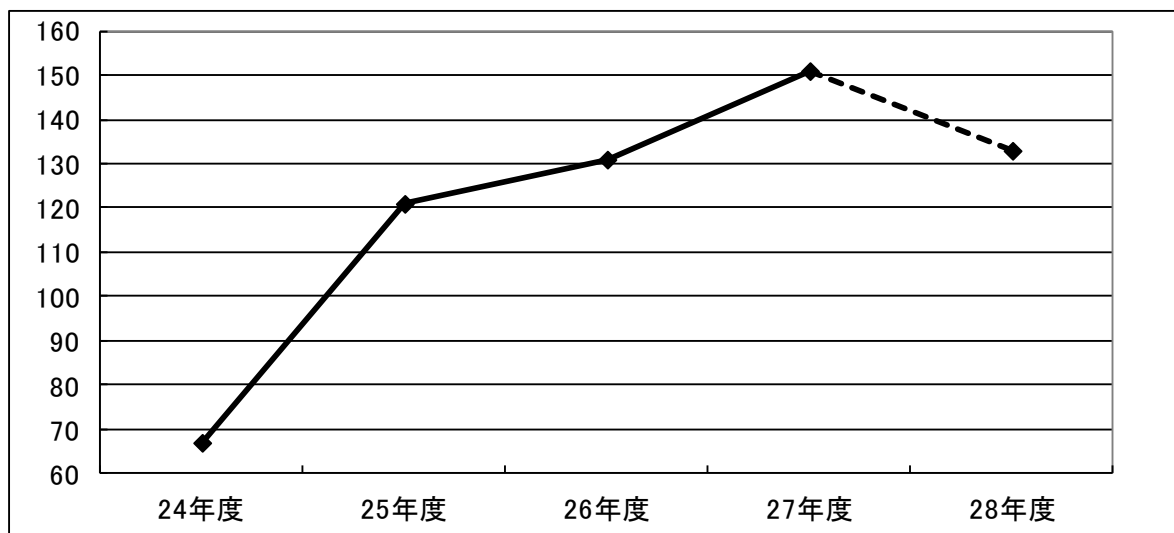
【 数値目標 】 ●事業本数 【133 本】

平成 28 年度は、共催事業を含め年間 133 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※27 年度は見込値、28 年度は目標値

事業ジャンル	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
音楽(クラシック)	10	9	10	11	8
音楽(クラシック以外)	6	7	6	12	13
映画	13	16	14	12	12
演劇・古典芸能	8	8	6	6	4
美術	4	3	2	2	2
アウトリーチ	15	66	85	96	80
その他	11	12	8	12	14
合計	67	121	131	151	133



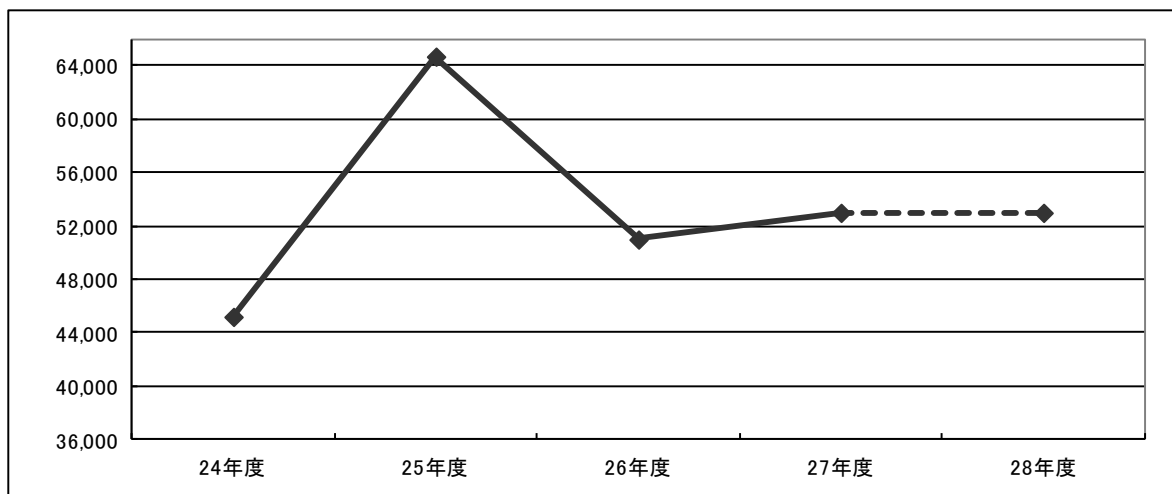
【 数値目標 】 ●入場者数 【53,000 人】

入場者数は、事業本数 133 本実施を前提条件として、53,000 人を目標とする。

文化事業・入場者数の推移

※27 年度は見込値、28 年度は目標値

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
入場者数	45,206	64,700	51,000	53,000	53,000
対前年比	83.5%	143.1%	78.8%	103.9%	100.0%
対前年人数	△ 8,904	19,494	△ 13,700	2,000	0



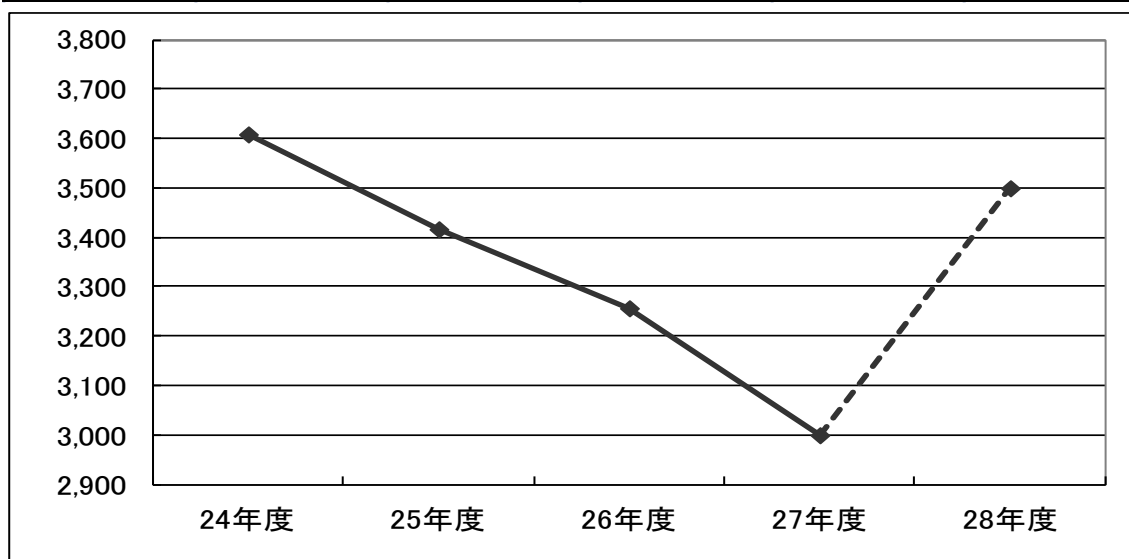
【 数値目標 】 ●ユリックス スマイルクラブ会員数 【3,500 人】

会員数目標を 3,500 人とし、会員数増に向けて積極的な広報を行う。

会員数の推移

※27 年度は見込値、28 年度は目標値

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
会員数	3,609	3,417	3,257	3,000	3,500
対前年比	114.9%	94.7%	95.3%	92.1%	116.7%
対前年人数	469	△ 192	△ 160	△ 257	500



⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

来場者のニーズに適合した質の高いプログラムの提供や観望会の実施、ボランティアの活動支援などの地域に根差した活動に加え、近年よりスタートした小学生向けの講座「ほしぞら友の会」やリラクセーションプログラムの夜間投影などが今後定着していくように事業を進めていく。

● ニーズに適合した質の高いプログラムの提供

プラネタリウムでは、年齢層ごとに対象を絞ったプログラム展開が定着しており、これを今後も継続していく。

子ども向けプログラムでは、入場者がいつ来ても楽しめるよう、ショートストーリーの定期的な変更、クイズや落書きのバリエーションの増加など工夫を続けていく。

また、大人を中心に人気となっているリラクセーションプログラムでは、より星空や映像をゆったりと楽しめる空間作りを行うことに加え、夜間投影の入場者が増加するよう、広報などを工夫していく。

おとな向けでは、最新の天文学や宇宙に関する内容を取り入れたプログラムを実施し、来場者の興味・関心を刺激するような番組作りを行っていく。

県内の他のプラネタリウムとは違い、全て専門職員によって番組制作を行い、生解説でプログラムを進めているという特色を魅力として、入場者増につなげていく。

● 学校団体利用促進の強化

今年度も学校団体向けプログラムの利用促進に取り組んでいく。その中でも、特に市内学校の利用促進に努めていく。

また、県内広範囲の小・中・特別支援学校に案内を送付してきたことで、遠方からの来館もみられた。今後も広範囲への案内を継続実施し、入場者数増加につなげる。

● 天文普及に関わる事業

天文普及に関する事業として、観望会の実施を継続していく。また今年で3年目を迎える小学生対象の講座「ほしぞら友の会」では、月1回の例会を通じ子どもたちが科学に対して興味・関心を持ち、正しい科学知識を育むことで、社会教育施設として将来を担う人材育成の場としていく。

● ほしぞらスタッフ（ボランティア）による天文普及活動の支援

ほしぞらスタッフ（ボランティア）は、市内外より現在 49 人の登録があり、観望会の企画・実施を中心に活躍している。今後も、ボランティアによる活動の幅が広がるよう工夫しつつ、個々が参加しやすく、社会的欲求・自己実現欲求に適う活動ができるよう支援していく。

● 広報活動の見直しと工夫

これまで、県内広範囲の学校団体や幼稚園・保育園へ案内を行い、団体利用の促進をはかってきた。また、個人来館者へのアプローチとして、近隣施設へのリーフレット・ポスターの設置、アンケート回答者（5,000 件）への案内送付など、入場者数増に向けた広報活動を進めてきた。また、Facebook や Twitter など、インターネットを利用した広報も行ってきた。これらの広報活動を、より効果的に進められるよう見直しや工夫を進めていく。

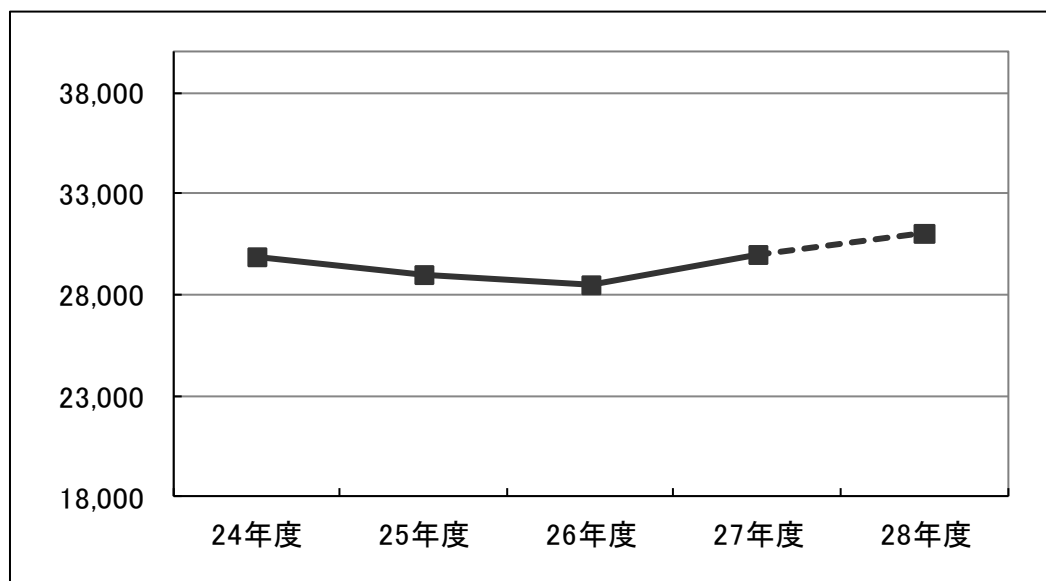
また、通年で実施する小学生対象の講座における年間パスポート制度、学習投影を利用した市内児童に招待券を配布するなどを通じ、小学生を核にした家族単位での入場者増を目指していく。

【 数値目標 】 ● 入場者数 【31,000 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※27 年度は見込値、28 年度は目標値

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入場者数	29,887	29,005	28,500	30,000	31,000
対前年比	77.7%	97.0%	98.3%	105.3%	103.3%
対前年人数	△ 8,578	△ 882	△ 505	1,500	1,000



⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

●アクアドーム

国や宗像市の健康・スポーツに関する計画等の趣旨・基本理念等と合致することを基本に、利用者の「総合的健康の維持向上」を行う。

①健康づくりに関する情報の収集・発信は、ホームページやアクアドーム新聞等の広報媒体によって実施

- ・主な事業であるウエルネスクラブ、スイミングスクール、また新たに取り組むサービス向上施策について、広報紙や新聞折り込みチラシを通して周知を図っていく。
- ・アクアドームで行われるイベント情報や健康情報を簡単にまとめた「月刊アクアドーム新聞」を各コミュニティセンターに配布する。

②特定保健指導や介護予防事業、スポーツ推進計画など宗像市の健康づくり事業を積極的に実施

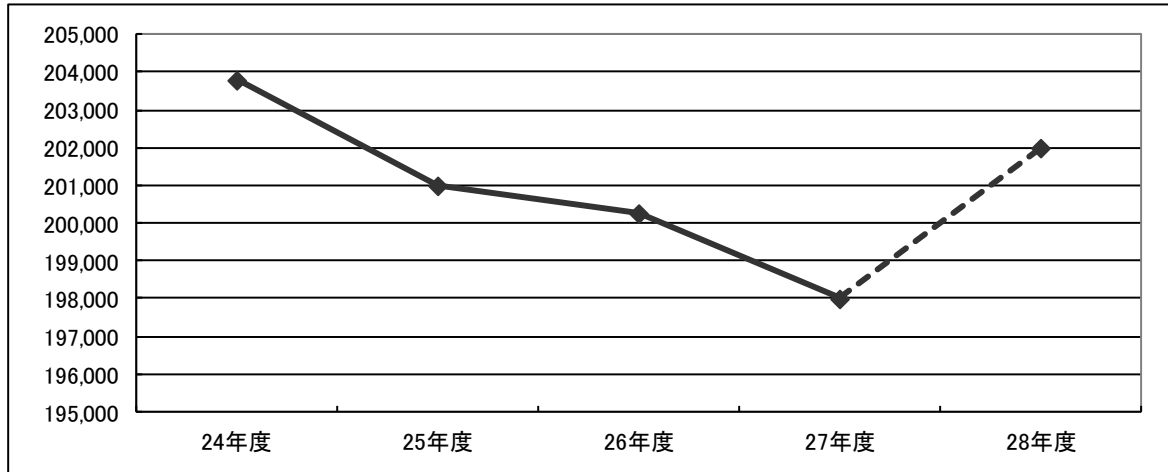
- ・特定保健指導の積極的支援、動機づけ支援、特定健診結果説明会での運動指導、特定保健指導対象者に指導参加を促す電話勧奨を行う。
- ・アクアドームの介護予防事業である「ここカラ・カレッジ」（陸上運動・水中運動・調理実習）の陸上運動プログラムをコミュニティセンターで実施できるようにする。
- ・スポーツサポートセンター（仮称）との連携を強化する。

【 数値目標 】 ●入場者数 【202,000 人】

アクアドーム入場者数の推移

※27 年度は見込値、28 年度は目標値

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入場者数	203,798	201,000	200,265	198,000	202,000
対前年比	101.2%	98.6%	99.6%	98.9%	102.0%



●ゆ～ゆ～プール

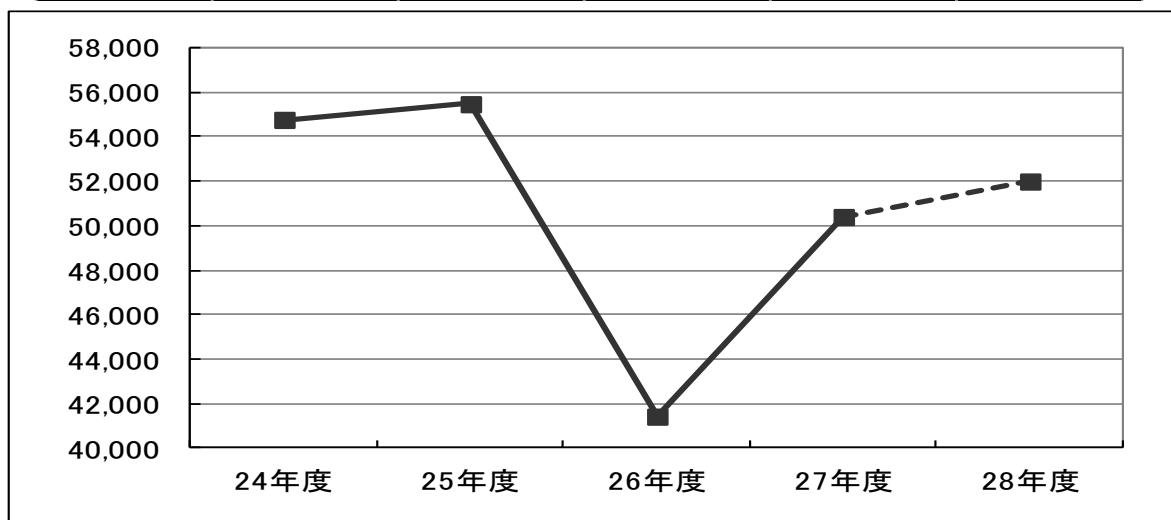
プールサイド等の利用環境が改善され、より快適なレジャープールとなった。これに併せ、幼児・小学生低学年が楽しく安全に遊べるサービスを実施していく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【52,000 人】

ゆ～ゆ～プール利用者数の推移

28 年度は目標値

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入場者数	54,772	55,477	41,430	50,405	52,000
対前年比	107.7%	101.3%	74.7%	121.7%	125.5%
対前年人数	3,917	705	△ 13,342	8,975	△ 3,477



● パットゴルフ場

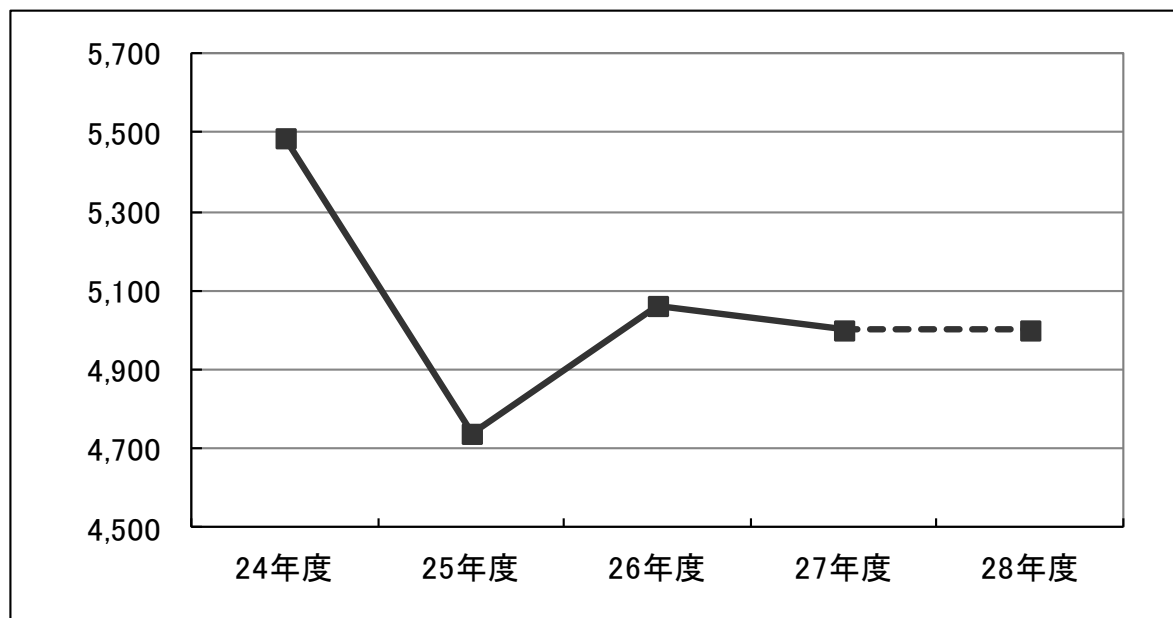
入場者の減少傾向が続いている。シニアやファミリーなど利用者を明確にしたサービスの継続やコミュニティ対抗の大会再開等により、トレンドの変化を目指していく。

【 数値目標 】 ●入場者数【 5,000 人 】

パットゴルフ場利用者数の推移

※27年度は見込値、28年度は目標値

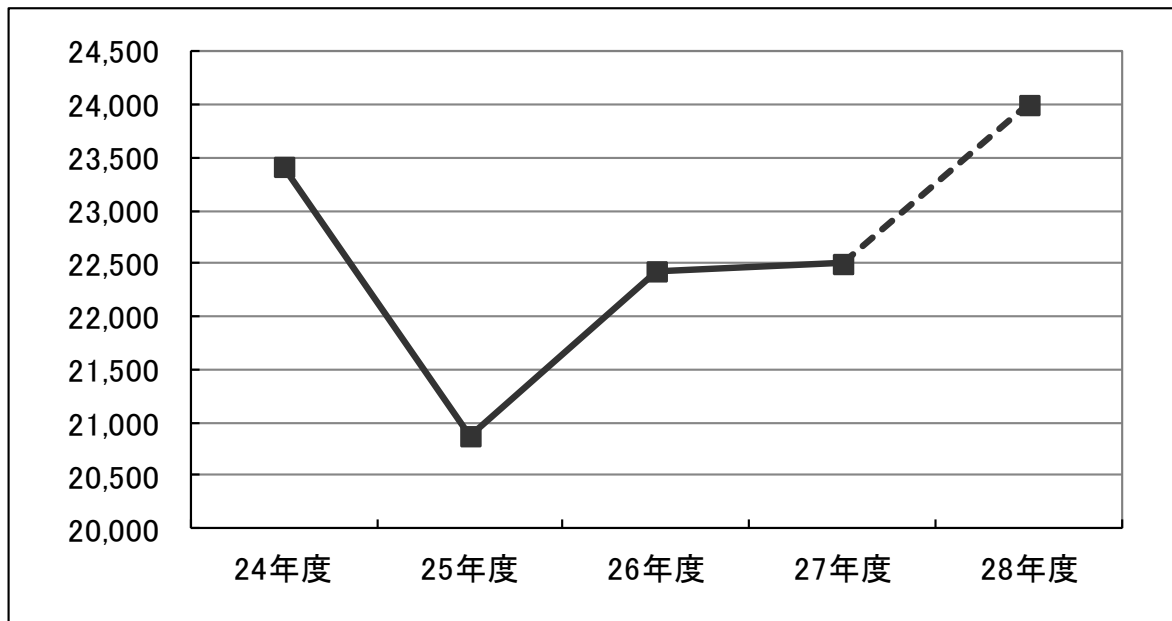
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入場者数	5,487	4,738	5,062	5,000	5,000
対前年比	98.4%	86.3%	106.8%	98.8%	100.0%
対前年人数	△ 91	△ 749	324	△ 62	0



●テニスコート

新サービスの導入検討や積極的な広報実施により、入場者数の増をめざす。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入場者数	23,417	20,875	22,431	22,500	24,000
対前年比	99.5%	89.1%	107.5%	100.3%	106.7%
対前年人数	△ 125	△ 2,542	1,556	69	1,500



⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

健康増進事業や様々なスポーツイベントを開催することにより、心身健やかな市民と活力のある地域づくりを目的とする。

- ① 「クラシック音楽」と「リラックス運動」を組み合わせたユリックスオリジナルメニューの提案
いきいき出前コンサートの一部に、運動指導員が行う簡単な運動実技を取り入れ、健康運動実践の意識向上を目指す。
- ② コミュニティセンターでの調理実習開催
メイトム宗像で行っているクッキングメイツのレシピを活用し、コミュニティセンターでも調理実習を行う。
- ③ 小学生と保護者が一緒に行う「夏休み冬休み親子クッキング」の実施
小学生（3～6年生）対象に保護者と一緒におこなう調理実習を行う。
- ④ ランニング初心者や愛好家を対象とした、ランニング練習会の実施
年間 11 回を予定、「ユリックスサラダ」に情報を掲載し、アクアドーム利用者以外の受け入れも行う。
- ⑤ スイミングスクール休止期間に、「水中運動教室」「初級水泳教室」開催
7月8月の夏季に、1 回ごとの参加費を支払って参加できる教室を実施する。
- ⑥ 祝日に行う特別レッスン「祝日プログラム」の開催
平成 27 年度も実施した祝日のスタジオプログラムを継続して行う。
- ⑦ 市民活動団体に、「健康づくり運動体験」や「栄養改善支援」メニューを提案
市民活動団体の活動内容が、運動指導員による「健康づくり運動体験」や管理栄養士による「栄養改善支援」を組み込んだ活動になるように、メニューを提案する。

4. 平成 28 年度財団運営

① 組織・運営体制

職員の体制については、現在の中核職員中心の体制を維持する。法改正を受けて、財団の現場実務の中心である嘱託職員の雇用年限を撤廃する。

【 ユリックス職員数 】 (28. 4. 1 現在)

職 種	総務部	事業部	計	備 考
中 核	2	3	5	市派遣職員含む
専 任	2	3	5	
嘱 託	3	5	8	
臨時A	4	6	10	
臨時B	0	7	7	
計	11	24	35	

② 財政運営

平成 27 年度利用料金は、イベントホールの 4 月～6 月中旬までの改修閉鎖による減額、ゆ～ゆ～プールの増額などの結果、最終的には微増であった。文化事業は、1 月の大雪により発生したチケットの払い戻しなどがあり厳しい決算となった。

支出面では重油価格の下落などプラス要素はあったものの、修繕費などが大きく超過した。

平成 28 年度は、寄付金獲得や施設利用率、チケット販売率の向上に努める。また、第四期指定管理に向け主要委託業務の検討に着手する。

【 指定管理費の推移 】

予算ベース	第一期指定管理費	第二期指定管理費	第三期指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000